

受け継がれる精神

創立者トクヨの死

—「外になしただ羽根布団 わが一生」

学校でのトクヨは理事長・校長・教授・舎監・事務員を兼務し、多忙を極めた。身なりなど構っている暇のないトクヨの普段の服装はグレー系のトックリ襟のセーターに濃い色の長いスカートと、いたって質素なものだった。時にはそのセーターが裏返しのままだったこともあった。

胸を張り、いつもさっそうとしていたトクヨだが長い間の孤軍奮闘によって、心身ともに疲れ果てていた。1941年(昭和16年)入学式の式場に出かけようとして倒れ、3ヵ月後、7月17日に永遠の眠りについた。羽根布団に安らぐことを求めながら安らぐことのない奮闘努力の一生だった。

引継ぎ

大黒柱のトクヨの死に際して養女的美喜子が理事長を継ぎ、校長には仙台市で小学校の校長を歴任したトクヨの実弟二階堂清寿がその任に当たることとなった。清寿は同窓会を再組織し、校舎改築期成会を発足させ、校歌や寮歌を制定するなど、物心両面での学園再生に力を尽くした。やがて迎えた戦中・戦後の苦難—修業年限の短縮、学業を抛っての勤労動員、空襲、敗戦前後の食糧難—の時代を乗り切って剛健と優雅の両面をもつ体育を理想として衣食住の生活全体を通しての人間教育を行なうという、トクヨの建学の精神はゆるぎなく引き継がれた。

展示品リスト

- ・清寿書 短冊 清寿は卒業祝いに学生達へ自作の歌を送った。
(この短冊掛けは、昭和30年代のなかばに松原寮の廃材で作らせたもの。)
- ・位記 敷記
- ・御香料他
- ・印鑑各種



晩年のトクヨ



生徒による葬送



墓前に卒業報告



幼少期的美喜子
左は伯母 トクヨ
右は母 村田トミ



二階堂美喜子(1919—1949)
昭和16年4月伯母トクヨの養女となり、トクヨ没後、理事長として戦中・戦後の苦難の時代を支えた



二階堂清寿(1882—1976)
第二の人生として、トクヨ没後の「貧乏学校」の校長を引き受けて以降34年その職にあって、弟の真寿(1894—1977)とともに今日の二階堂学園を作り上げた